

# 雲南病院だより

## 第7回 雲南市立病院建設委員会

1月21日(月)に第7回雲南市立病院建設委員会を開催し、病院建設の進捗状況、新公立病院改革プラン、病院事業の活動状況について説明を行いました。

この建設委員会は行政、医療・介護・福祉・住民代表の外部有識者10人で構成され、当院の新棟改築に関する業務を推進するために設置されました。また、この建設委員会は当院の新公立病院改革プランの評価委員会としても位置付け、改革プランの点検や評価を行います。

今回、任期満了に伴い、新たに委員の委嘱を行い、委員長に引き続き熊倉俊一さん(島根大学医学部地域医療教育学講座教授)を選出しました。

委員会の冒頭、松井 譲病 院事業管理者より、「新本館



棟建設の大事業に携わることができ、大変に感慨深いところであり、開院して9カ月経過しましたがおおむね良好な評価をいただいております。ここに至るまでには多くの方のお力添えがあったことに深く感謝申し上げます」とあいさつを述べました。



熊倉委員長からは委員会のまとめとして、「9月のグラウンドオープンに向け、病院改築も順調に進み、予定どおり期待するとともに、今後さらに地域医療の充実に市立病院が寄与することを期待します」と述べられました。

また、新公立病院改革プランについては「基本方針に沿った活動がきちんとなされているとして、委員会として評価するとともに、若手医師の確保が図られていることについて、引き続き努力をしてほしい」と講評をいただきました。

# 病院で働く 医療のプロフェッショナル

病院では、治療を行う医師や看護師をはじめ、さまざまな職種のスタッフが働いています。その多くは専門性の高いスキルや知識が必要で、国が認める国家資格を有していなければ就けない職種がほとんどです。日進月歩の現代医療に携わる仕事であるために、常に専門知識を磨く努力をする必要があります。また、一人の患者さんに複数の医療スタッフが連携して、治療やケアを行う「チーム医療」にも取り組んでいます。

## 視能訓練士の仕事について

Interview

～検査科 視能訓練士・小野悦盛(13年目)～



FILE:08

### 視能訓練士という職業を選んだきっかけは？

眼科器械販売の会社で働いていたときに視能訓練士という資格があることを知りました。営業職でしたので眼科医や視能訓練士の方々と接することが多く、自分も患者さんの病気の治療に携わりたいと思うようになったのがきっかけです。営業も楽しかったのですが、一大決心をして学校に進学しました。

### どんな仕事をしていますか？

主な仕事は眼科検査をすることです。視力検査や視野検査をすることが多いですが、最近はOCT検査(眼底の断層撮影)が増えてきています。3歳児健診の眼科検査もしています。訓練士という名前の資格なので子どもの視覚発達を促す訓練をすることもあります。

### 雲南病院で働こうと思った理由は？

以前の職場の松江医療福祉専門学校(現松江総合医療専門学校)で働いているときに、雲南病院に眼科検査の手伝いに来ていました。何年か通っている間に石原美香先生(現いしはら眼科院長)が着任し、誠心誠意を込めて患者さんと接している姿にこの先生と一緒に働きたい!と思い雲南病院で働くことにしました。

### 雲南市立病院で働いてみての感想は？

大阪から来たので、初めは言葉が分からず苦労しました。特に眼科受診の理由を聞くときに、「はしる」や「まより」など分からない単語がたくさんで、いつも患者さんやスタッフのみんなに言葉の意味を教えてもらっていました。雲南病院で働き始めて13年目になりますが、親しみやすい患者さんが多いのでいつも楽しく検査をしています。職員同士も仲が良いのでとても働きやすく、他の職種の人達からいつも良い刺激を受けています。

### 今後どのような視能訓練士になりたいと思いますか？

入職当時から患者さんに「より良い医療を提供する」ということを目標にしています。自分の知識や技術を高めるために努力するのはもちろんのことですが、患者さんの心配や不安を少しでも軽くできるような視能訓練士になりたいです。

### 視能訓練士の仕事のやりがいを教えてください。

自分が行った検査結果をもとに眼科医が診断や治療方針を決めていくことには責任を感じますが、検査を通じて目の治療をサポートしていることに大きなやりがいを感じています。



▲視力検査



▲眼底撮影

## 旧西棟定礎箱開封

現在解体工事を行っている旧西棟の定礎を取り外し、定礎箱を開封しました。定礎箱を開けると、建築図面、設計書、定礎式芳名簿、定礎式当日の新聞、当時の硬貨などが入っていました。



旧西棟は昭和41年に定礎式を行っており、52年の年月を経てお目見えした品を拝見し、旧西棟での日々を懐かしんでいました。旧西棟は解体後、駐車場となります。市民の皆様にはご迷惑をお掛けしますが、引き続きご協力よろしくお願い致します。



▲定礎箱の中身



## ふるさと教育

ふるさと教育とは島根県教育委員会が県内すべての公立小中学校で進めており、地域の自然、歴史、文化、伝統行事、産業といった教育資源（「ひと・もの・こと」）を活かし、学校・家庭・地域が一体となって、ふるさに誇りを持ち心豊かでたくましい子どもを育てることを目的として実施しています。

### 阿用小学校

12月6日（木）、6年生の児童を対象にふるさと教育を実施し、当院から5人が小学校を訪問し、授業を行いました。

1時限目は、雲南圏域の医療状況や病院紹介をした後、各職種の仕事の内容やその職種を選んだきっかけなどの話をしました。2時限目は医療体験を行い、縫合や採血、聴診器、水薬調剤、軟膏調剤、手洗い後の洗い残しチェックを体験しました。1時限目の授業では病院の歴史や各職種

の話聞き、分からないことがあれば質問したりと興味を持ち、2時限目の医療体験では、普段できない体験をすることができ元気で楽しそうな姿を見せてくれました。

1月25日（金）には、児童が当院を訪れ、病院ボランティア事務局の矢壁敏宏さんが、病院ボランティアの活動紹介や地域医療を守る住民活動がなぜ必要なのかを話しました。次に病院見学では、普段入ることのない薬剤科、放射線科、検査科の見学を行いました。

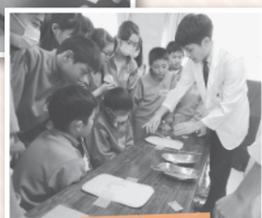


### 加茂小学校

水薬調剤体験



採血体験



縫合体験

1月23日（水）、6年生の児童を対象に実施し、当院から7人が小学校を訪問し授業を行いました。

1時限目は阿用小学校と同様に雲南圏域の医療状況や病院紹介をし、各職種の仕事の内容やその職種を選んだきっかけを話しました。2時限目は医療体験で、縫合や採血、水薬調剤、エコー、手洗い後の洗い残しチェック体験を行いました。1時限目の話では、難しい話もありましたが真剣に聞き入っており、2時限目の医療体験では、どのコーナーでも楽しそうに体験をしていました。

### 掛合小学校

2月5日（火）、6年生の児童が当院を訪れ、授業を行いました。当院から5人が参加しました。

はじめに病院紹介をし、その後医療体験では2グループに分かれて身体状況体験と聴診器体験、利き手交換練習、手洗い後の洗い残しチェックを行いました。最後に病院見学を行い、普段入ることがない検査科と放射線科へ行き、担当者の話を聞き入っていました。



身体状況体験

利き手交換練習

聴診器体験

限られた時間でしたが、座学では話をしっかり聞き、医療体験では関心を持ち楽しく和やかな雰囲気となりました。

このふるさと教育の授業を通じて、ふるさに愛着や誇りを持ち、この体験が将来の進路を決める一助になれば幸いです。

## 新本館棟 紹介

眼科検査室  
(2階)

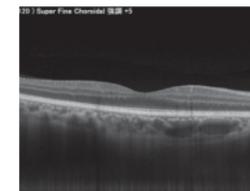
## 地域医療 日本一をめざし 頑張ります!

眼球は10円玉（約24mm）くらいの大きさのとても小さな器官ですが、外界からの情報の80%は目から得ているといわれています。眼科検査室では、その小さな目をさまざまな機器を駆使して、目の外側からだけでは判断できない視機能の状態を検査しています。今回眼科は、新本館棟の2階西側へ移転しましたので紹介します。

### OCT（光干渉断層計）検査



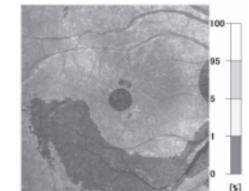
従来の眼底検査では見ることができなかった網膜の断面を観察することができ、色調や表面の形だけでは判断できなかった網膜の病気の診断が可能になりました。非接触で患者さんにほとんど負担をかけることはありません。加齢黄斑変性や黄斑円孔、網膜浮腫などの網膜疾患の診断や術後の評価に役に立ちます。緑内障においても治療効果の判定や経過観察に信頼性のある判断材料になります。



正常な網膜の断面



加齢黄斑変性

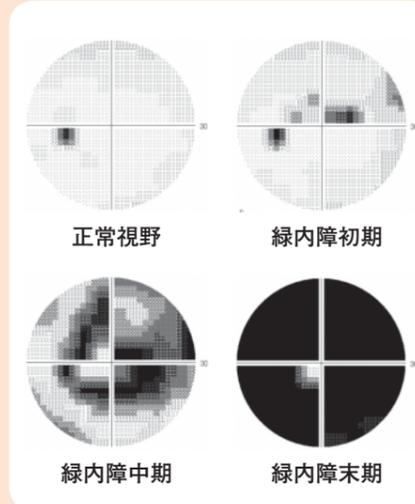


緑内障

### HFA（自動視野計）検査



緑内障の方の視野を測定します。視野といっても視野の広さを測定するのではなく、あらかじめ決められた測定点でどのくらいまで暗い光を判別できるかということを検査しています。



正常視野

緑内障初期

緑内障中期

緑内障末期

眼科検査室にはたくさんの患者さんとその家族が来られますが、できるだけお待たせしないように、一人ひとりに親切に、丁寧に接することを心掛けています。検査も負担なくできるように頑張ります。



### 眼科外来診療案内

火・木・金  
完全予約制です。  
コンタクト外来は  
行っていません。

